

# 震災6年 音で励まし続け

## 宮城でカフェ・コンサート

横浜の認定NPO 交流「今こそ必要」

横浜市の認定NPO法人「あっちこっち」が、東日本大震災で被災した宮城県石巻市と七ヶ浜町などで、被災者にクラシック音楽とお菓子を届ける「あきな樹カフェ・コンサート」を続けている。仮設住宅などですでに150回ほど開いてきたが、震災6年となる今年3月はホールを借りて行う。同法人の厚地美香子理事長(49)は「被災者のコミュニティが失われてきた今こそ、こうした活動が必要」と意気込みを新たにしている。

(白井亨佳)

厚地さんは武蔵野音大を卒業後、都内の音楽マネジメント会社で20年間、営業や企画などを担当。「もっと人と人をつなぐきめ細かいサービスがしたい」と起業を志し、退職してビジネス

スクールに通い始めた。そんな頃、震災が発生。現地を訪れた友人に「被災地には音楽でできることがたくさんある」と勧められ、「クラシックには元気を与える力がある」と信じて活動を始めた。

それから毎月1回、車で片道8時間かけて演奏をしに行くようになった。「いろんな人の思いを被災地に届け、つながることができるといい」と13年夏、NPO法人を設立。

この6年間で街の風景は変わりつつあるが、演奏依頼はむしろ増えている。仮設住宅が減り、訪れるボランティアも少なくなったことで、新たな被災者同士の交流が求められているからだという。3月26日、七ヶ浜町のホールで開くのも、離ればなれの被災者が集まるきっかけにしたいから。「お役に立てる限り、ずっと続けていきたい。あっちこっち行きませよ」とにっこり笑った。



被災地を音楽で励まし続ける厚地さん(横浜市西区の自宅で)

震災から半年後の2011年9月、友人の演奏家に声をかけて初めてコンサートを開催。クラシックになじみのない被災者のために、コーヒートと手作りのケーキを用意し、食べながら聴ける形にした。会場は七ヶ浜町の仮設住宅集会所。「地震を機に感情を失ってしまったが、音楽を聴いて涙が出た」と喜んでくれた人もいたとい

協力者は徐々に増えていき、プロのピアニストやバイオリニスト、芸術大学の学生など約50人に広がった。お菓子も当初は自分で作っていたが、今は横浜市で集めたボランティアが作っている。

厚地さんにとって忘れられない言葉がある。活動を始めて4年ほどたった頃、七ヶ浜町での演奏後、いつも来てくれる子供4人を連



昨年12月に七ヶ浜町の公民館で行われたコンサートの様子(厚地さん提供)

れた母親が、厚地さんに近寄ってきて言った。「私たちは震災でいろんなものを失ったけれど、おかげで音楽と出会えました」。続けてきて良かったと心から思えたという。